2019 年度 MS 自己点検・評価報告書

Ⅰ　はじめに

開学 100 周年を迎える 2026 年を目標年として策定された「MS-26 戦略プラン」の推進にかかり、各部署では毎年度事業進捗状況を自己点検・評価を実施している。また、第 3 期大学認証評価の名城大学受審が 2022 年予定であることに対応し、本学では新たな教育質保証制度が 2019 年度から本格稼働している。これらを踏まえ、当該年度事業結果の自己点検・評価を「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに取りまとめたものがこの「MS 自己点検・評価報告書」である。

Ⅱ　本報告書　作成から活用までの流れ

(1)各部署は年度当初に策定した事業計画に対し、自己点検・評価を実施し、その結果を報告書として MS-26 推進室に提出。

(2)MS-26 推進室・総合企画部にて事業内容を確認。自己評価を参考に、「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに「実績・長所」および「課題」をとりまとめた。

(3)学長スタッフ会議や大学評価委員会等で本報告書内容を共有することを通じて、改善活動を推進する。

Ⅲ　MS ドメインごとの自己評価結果

評価 A. 目標を上回る取り組みをし改善した　B. おおむね目標通りの取り組みをし改善した　C. 取り組みはしたが改善していない　D. 十分に取り組めず改善していない

MS ドメイン別事業		評価 A		評価 B		評価 C		評価 D		総計
		事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	
大学	01-1:人材の確保と育成／学生	28	23%	65	53%	18	15%	11	9%	122
	01-2:人材の確保と育成／教職員	24	26%	53	57%	15	16%	1	1%	93
	02-1:教育の充実／学びの促進	55	25%	132	59%	21	9%	15	7%	223
	02-2:教育の充実／大学院	16	14%	76	66%	11	9%	13	11%	116
	02-3:教育の充実／学生支援	15	23%	43	66%	2	3%	5	8%	65
	03-1:研究の充実／研究推進	6	14%	30	71%	6	14%		0%	42
	03-2:研究の充実／国際的研究拠点	1	7%	10	67%	3	20%	1	7%	15
	04-1:社会貢献	15	30%	30	60%	5	10%		0%	50
	05-1:組織・経営改革／組織の活性化	16	31%	30	58%	4	8%	2	4%	52
	05-2:組織・経営改革／ブランド力の向上	10	42%	11	46%	2	8%	1	4%	24
	05-3:組織・経営改革／基盤整備	12	38%	15	47%	5	16%		0%	32
高校	01:人材の確保と育成	2	40%	3	60%		0%		0%	5
	02:教育の充実	1	20%	4	80%		0%		0%	5
	03:社会貢献		0%	2	100%		0%		0%	2
	04:組織・体制整備		0%	4	100%		0%		0%	4
	総計	201	24%	508	60%	92	11%	49	6%	850

%は四捨五入により合計 100%とならない場合がある。

【大学】

1-1：人材の確保と育成／学生

（1）実績・長所

全学部で入試形態別の在学生成績分析を実施し、優秀な人材確保に向けての活動を継続している。加えて2020 年度新入試制度導入に伴う各試験制度変更を決定した。また受験生への情報提供として、オープンキャンパス等情報発信や在学生母校訪問など、様々な手法で積極的に実施している。スポーツ活性化に向けた人材確保策の一環で、寮整備や健康管理体制も進み、大会等で結果を残しており、人材確保への好循環も生まれている。

（2）課題

大学院学生確保の諸活動については、現状では各研究科単位での活動にとどまっている。定員充足に向けた定員の在り方も含めて、改善の余地がある。

1-2：人材の確保と育成／教職員

（1）実績・長所

教職員に対して、質保証活動の結果、明らかになった課題等に関する FD 活動を実施している。また、FD 実施に向け関係者による積極的な働きかけや、教員業績評価制度の導入など、FD 推進への「仕組み」作りも進んだ。研究に関する啓発活動（倫理教育・適正な経費執行等）も進んでいる。また事務職員に関しては、部署単位で実務能力向上に向けた研修を開催・参加している。

（2）課題

教育職員採用・昇任に関して、多様な人材確保に向けた教員組織編成方針の継続的な見直しが必要である。現在、FD、SD に積極的に取り組んでいるが、参加率 100％に向けた工夫も必要である。

2-1：教育の充実／学びの促進

（1）実績・長所

ポリシーに基づく質保証制度が実働開始し、アンケート等情報をもとに各学部等で課題を把握し、併せて質保証内容の情報開示として、各種指標をグラフ化し HP で公表、次年度への改善活動につなげている。また「学びのコミュニティ創出支援事業制度」や「Enjoy Learning プロジェクト」「名城大学チャレンジ支援プログラム」など、学生の主体的な活動を支援する取り組みが活性化している。

国際化推進に向けては、留学生受け入れ・送り出し双方の制度充実を図った。

（2）課題

「学びのコミュニティ創出支援事業制度」について、新規取組増に向けた制度再設計が必要となっている。また、国際化計画に基づき、更なる留学生受け入れ・送り出しを行っていくことが必要である。

2-2：教育の充実／大学院

（1）実績・長所

文理ともに学外組織との連携による活動活性化が進んでいる。また論文審査基準明確化・単位制導入・シラバスチェックなど、組織的な教育質保証体制が整備された。

（2）課題

単位制導入後の効果・課題について、十分な結果検証を行っていく必要がある。また、学修成果の可視化について、学士課程が中心となっているが、大学院における学修成果の可視化についても着手する必要がある。

2-3：教育の充実／学生支援

（1）実績・長所

正課を補う形で、学修・資格取得支援、教職含めた進路指導機会の充実を図っている。また生活面の支援では、退学者防止、学修指導充実に向け、各種資料提供を実施、根拠に基づく指導を実施している。

（2）課題

友人作り等の機会提供や、退学者防止への情報収集の充実（退学・除籍等の理由情報蓄積）、就職関連行事への出席率向上など、学生視点に立った取り組みの充実や検証が求められる。

3-1：研究の充実／研究推進

（1）実績・長所

コーディネータ活用等による外部資金獲得に向けた支援体制、科研費申請説明会・研究倫理・コンプライアンス教育の推進などに加え、学術研究奨励の新制度、テクノフェア開催等をはじめとする学術研究内容の情報発信推進、レンタルラボ運用開始など新たな取り組みを開始した。

（2）課題

科研費等外部資金獲得への取り組みについて、各学部の協力のもと、申請率向上に向けた体制構築が課題である。

3-2：研究の充実／国際的研究拠点

（1）実績・長所

研究ブランディング事業終了後も、採択済 2 事業を継続し、本学研究の特色として推進している。

（2）課題

LED 及びナノカーボンチューブに続く研究拠点を形成していくことが必要である。

4-1：社会貢献

（1）実績・長所

社会連携センターの活動活性化により、学内人的資源と学外要望とのマッチングが進み、教員による共同研究参加・学外組織委員・出前講義等、学生の諸活動を通じた地域活性を通じ、地域社会への貢献を進めている。

（2）課題

本学に対する社会からの期待・要望は大きく、学内での理解活動推進や、協力者確保を進める必要がある。

5-1：組織・経営改革／組織の活性化

（1）実績・長所

組織活性化については、特に質保証に関して、全学および各学部評価委員会活動が定例化し、質保証・教員業績評価制度について議論・改善を重ねている。また私立大学等改革総合支援事業などの補助金事業については、全学協力のもと要件充足に向け活動を行い、採択に至った。また財政プランの策定・説明会を通じ、本法人の財政面の理解活動を推進した。

組織整備について、寄附行為改正、学長補佐制度導入、体育科学センター設置等、また「開学 100 周年」に向けたビジョン・推進体制の決定など制度改革を実施した。

（2）課題

100 周年事業や新学部設置・定員規模見直し等、大学活性化に向けた具体的政策の検討・決定が必要であ

る。

5-2：組織・経営改革／ブランド力の向上

（1）実績・長所

本学諸活動の情報発信として、父母・卒業生との交流機会設定や、HP・通信等情報発信方法の改善を行った。校友会との連携強化を継続中である。

（2）課題

企業単位の卒業生の会の活性化や、住所管理など情報発信のための情報管理方法の合理化の推進が課題である。

5-3：組織・経営改革／基盤整備

（1）実績・長所

経営本部を見直し、担当理事を明確にした新事務組織を決定。またICT環境整備を推進し、安定稼働や業務効率化に向けた新システム導入を実施した。教学からの意見を踏まえ、財務視点を含めた「キャンパス再開発基本計画」を決定した。

（2）課題

決定されたキャンパス再開発基本計画をもとに詳細設計に移行するためには、入学定員厳格化のもとでの収支改善策の検討・実行が必要である。また災害や事件事故、海外交流の活性化に伴う送り出し学生増加を踏まえた危機管理体制の充実・訓練が欠かせない。事務職員新人事制度の円滑な導入も課題である。

【高校】

1：人材の確保と育成

（1）実績・長所

吉野彰教授のノーベル賞受賞や私立学校への補助金充実により、5年ぶりに8,000名超の受験者数となった。

（2）課題

より多くの参加者獲得に向けた、塾説明会日程・公開見学会プログラムを検討する。

2：教育の充実

（1）実績・長所

「突破力」を育む探究型学習プログラムを全クラスで実施。その成果をSSH東海フェスタ、Meijo Global Festa等で発表した。またその経験・ノウハウを活かして他校教員向けワークショップを開催した。また国際化では、海外研修・グローバルフィールドワークを実施した。

（2）課題

自宅学習促進ツールである「スタディサプリ」について、特に特進クラス以外の生徒に向けた利用促進策を策定する。また、新型コロナウイルスの影響で、2019年度末以降、海外でのフィールドワーク等が実施の目途が立たず、代替案を含めて模索していく必要がある。

3：社会貢献

（1）実績・長所

予告の無い緊急地震速報による訓練や、校内宿泊訓練、大震災経験のある教員による体験談を通じ防災意識を高めた。

(2)課題

2019 年度は中村保育園児の本校に避難する活動が猛暑の為実施できなかった。2020 年度は新型コロナウイルス対応のため、実施時期を遅らせ、中村保育園と連携しながら、実施したい。

4:組織・体制整備

(1)実績・長所

2020 年度から普通科科長補佐を増員することを決定し、更なる機能的な運営を実現した。また学校組織に校長直下の図書局を配置し管理運営を強化した。

文化祭時同窓会企画、同窓会文化講演会を通じて、参加同窓生との交流深化を図った。

(2)課題

高校運営会議の効率化、審議事項の共有化を進めるため、資料のデジタル化を進めたい。

文化講演会を複数回実施し、準会員(本校生徒)へも案内する。また、同窓会主催事業を実施するための委員会を設置する。

以上